



# にじいろ 虹色

＝ 発行 ＝  
秋田県生涯学習センター  
〒010-0955 秋田市山王中島町1-1  
TEL : 018-865-1171  
FAX : 018-824-1799  
E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp  
編集担当：社会教育アドバイザー

**Spring ephemeral (春の妖精)ってなあに？**

春先に花を咲かせ、夏まで葉をつけると、あとは地下で過ごす草花の総称で、多くが落葉広葉樹林の林床に棲むのが「春の妖精」だそうです。

ようやく雪が消えた秋田に春を告げ人々を楽しませてくれる草花ですが、先駆けて雪割草の展示会が県内愛好者たちの手で開かれていました。

ここ県生涯学習センターホールでも、写真による「春の妖精のものがたり」が展示され、来館者を楽しませてくれました。「秋田花の会」の佐々木千紘氏・佐々木佐和子氏の紹介文に感激した方々が、ノートにこんな感想を寄せてくれました。

～草花に「言葉」を添えていただき写真が一層映える展示で心が和みます～

【福寿草】 男鹿半島 3月17日  
【黄花甘菜】 千秋公園 4月16日  
【菊咲一華】 高尾山 5月1日・・・

撮影場所や日時もありますので頃合いを見計らって妖精に会いに出かけるのも一興ですね。



## 写真展～春の妖精のものがたり

開催期間 4月10日～5月12日

# 美の国アクティブカレッジ

シニアコーディネーター企画講座のご案内

## 東日本大震災に学ぶ

① 4月21日(土) (裏ページ参照)	「災害と報道」 (株)秋田魁新報印刷 代表取締役社長 宍戸豊和氏 災害時の報道はどうあればよいのでしょうか
② 4月28日(土)	「人類と放射線」 前秋田大学学長 医学博士 三浦亮氏 ベラルーシの医師を招聘、また自らも赴いた経験からの歴史的考察です
③ 5月12日(土)	「地震と景観」 元秋田県立大学教授 工学博士 安原盛彦氏 建築物と景観の観点から地震と景観について考えます
④ 5月19日(土)	「災害と文学」 美の国アクティブカレッジシニアコーディネーター 北条常久 吉村昭著『三陸海岸大津波』を例に災害と文学について考えます
⑤ 5月26日(土)	「避難の実態」 秋田大学教育文化学部 准教授 紺野祐氏 福島出身の氏は原発事故とその災害にどう向き合ってきたのでしょうか

【申込方法】 電話やFAX、E-mail等でお申し込みいただけます。

TEL 018-865-1171 FAX 018-824-1799

E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp 担当 学習推進班 三浦



# 東日本大震災に学ぶ「災害と報道」に参加97名

講師：(株) 秋田魁新報印刷

代表取締役社長 宍戸豊和 氏

石巻ご出身の宍戸氏は、震災当時、編集局長の職にありました。『問題意識』に迫ったご講演の一部です。

**感覚～** 震災当日のテレビニュースでは、アナウンサーは声が詰まって原稿が読めなかった。取材記者も手が震えてシャッターを押せなかった。自分のやっていることの意味を考えさせられたと言う。これが当たり前の感覚だろう。

**なぜ?～** 何故こんなことになったのか。過去のデータをも調べ、原因を解明し、二度と起こらないようにしたいことが報道の目的である。

**住民と共に～** 特に地方紙は、「地域をよりよいものにしたい、住民と共に」を基本のスタンスとしている。

**共有～** 被災者もそうでない人も含めて、想いや出来事を共有し、次の世代につなげるのが報道の役割の一つである。

**記録～** 報道の大きな機能の一つは記録である。正確な状況把握と、後日の策に資するためにも根拠のある記事づくりに努力している。

**これでいいのか～** 新聞づくりは、読み手に考え方の巾を広げてもらう作業とも言える。例えば、町づくりや再建にもいろいろな考え方や立場がある。読み手は記者というフィルターを通して、何を言わんとした記事なのかを読み分けていただきたい。



## 講師のメッセージ～自分のこととして読み、これからを考えていただきたい

紹介： 県立図書館にコーナーを設置しました。

「東日本大震災に学ぶ」関連資料が展示されています。是非ご活用ください。

# 大事な子ども時代を豊かに過ごさせたい

～秋田県立近代美術館に出かけてみませんか～

## ☆イベント「みんなの教室」が開催されます

「イラスト ぼくのうち、わたしのまち」

5月20日(日)10時～15時、小学生以上が対象です。水彩絵の具を使ってイラスト”みんなの町”を描く体験教室です。事前申込が必要ですので、詳細は美術館HPをご覧ください。

☆ 4月21日から6月17日までは、「安野光雅の絵本展」が開催されています。津和野町立安野光雅美術館誕生10周年記念の館外展が秋田にやって来たのです。

☆ ところで、町立美術館には安野さんの想いを込めた古い木造教室があり、子どもたちが空想を育んだ温かい空間が再現されています。絵が大好きだった少年時代を、『本を読む習慣を子どもどものとき身に付けておきさえすれば、悲しいことや苦しいことなど、どんなことがあってもあとはなんとかなる』と振り返っての建築だそうです。

☆ 「大事な子ども時代を豊かに過ごさせたい」との想いを込めた環境づくりは共通の願いです。秋田の子どもたちが集い学べる自然豊かな空間が県立近代美術館にありました。

☆ 絵本展では木製の机や椅子・ベンチが置かれてあり、そこには母親が絵本を読み聞かせる姿がありました。「わあ、小人さんがいっぱいだあ」「それでどうなるの」「なんでえー、ふしぎー」「こわいね、だれもいないのかなー」などなど。絵本に顔をくっつける子どもたちのかわいい声が聞こえてきました。環境が変わることで、おうちでの読み聞かせや語りとはひと味違う体験をしたのではないのでしょうか。展覧会を鑑賞する大人たちにも何かしらいい笑顔が見られました。



親子で学べる場

友だちと学べる場